

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000752		
法人名	特定非営利活動法人 仁秀会		
事業所名	グループホーム たいよう	ユニット名	二号館
所在地	宮崎県児湯郡都農町大字川北6219-42		
自己評価作成日	平成26年2月1日	評価結果市町村受理日	平成26年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	二号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の皆さんが地域で安心した生活が送れるよう、職員で理念を考えその理念をもとに仕事をする事の大切さを伝えている。台所やトイレに掲示し意識して取り組むようにしている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れや小学生との交流等を行ってきた。近所の人達からも季節の野菜や果物等が届く事もあった。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で生活している認知症高齢者の方達に向けて、地域貢献したい思いはあるがなかなか実践できていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動内容や入居者の状況について報告を行っている。毎回同じ内容の報告になるので、ホームから問題提起をして会議の中で話し合いサービス向上を目指した会議となるようにしたい。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市長村担当の方に出席いただいている。その他にもホーム来られ話をしたり電話相談等も適宜行っている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議等でどんな行為が身体拘束になるのか話し合っている。ファイルを作成しているので職員は目を通し、正しく理解・実践できるように努めている。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修に参加したり、虐待は職員の態度や言葉もつながっていく事を職員会議等で話している。虐待の芽リストを使い自己点検を行っている。			

宮崎県都農町 グループホームたいよう(二号館)

自己	外部	項目	自己評価	二号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けていない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書を用い、時間をかけて説明するようにしている。不安な事や質問等を聞きいつでも相談できる旨の話をしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時等に意見や要望を聞くようにしている。家族会を開きホームの活動内容等を報告、意見等を出す時間を設けたが特に要望等は上がらなかった。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティング等で話を聞くようにしている。個人的に直接理事長と話が出来るようにもしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者が機会があるごとに職員の状況を話合うようにしている。実績に応じた昇給や資格・職種に応じた手当、希望休・有休を取得できるようにしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議を活かし勉強会等を行っている。色々な分野の研修に職員が参加できるように努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、研修会を企画したり懇親会等に参加している。ネットワークを広げて情報交換の場としている。			

自己	外部	項目	自己評価	二号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	現在どんな状況なのかを知り、本人の言葉をたくさん聞くように心がけている。自分で言えない方はその時々表情等をしっかりと読み取るように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在に至るまでの家族の状況を知り、不安や要望等を時間をかけて聴くようにしている。職員は話易い雰囲気作りを心掛けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族からきちんと話を聞く事、本人の状況をみて必要な支援は何なのか検討するようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にしている事を基本に考え、本人の出来る事、続けてきた事等を取り組めるよう支援をしている。(家事や野菜作り、草取り等)			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自宅への外泊や外出、法事や墓参りなどご家族にも支援をいただいている。会いに来られない時は電話連絡をして話ができるようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のスーパー等で知人に会い話し掛けられたり、地区の敬老会や祭りに出掛ける等してきた。知人等が面会に来やすい環境作りも心掛けている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話や行動、表情等から関係把握をしている。しかし、些細な言い合い等があり関係作りの難しさを感じる。自分から話をしていない方には職員が間に入り孤立しない支援を行うようにしている。			

宮崎県都農町 グループホームたいよう(二号館)

自己	外部	項目	自己評価	二号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム生活が終了しても移り先の関係者に本人の情報提供を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の入居者の方達の会話等を聞いて気持ちをわかるようにしている。普段言えない事も言えるような関係作りを目指したい。困難な方に対しては話し掛けをして表情等で観察しているが難しく感じている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族や担当ケアマネジャーから情報を聞いている。馴染みの場所や人を知る事でこれまでの暮らしを把握するようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子をしっかりとみていく事で現状を把握するようにしている。職員間でも情報を共有し、その人が出来る事や分かる事は自分の力でいつまでもできるような支援を心掛けている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の言葉を生活の中でひろい上げたり、家族の要望等も取り入れるようにしている。また、職員はその人に注目して情報を集めるように、本人が望む暮らしに近づけるような計画作りに努めている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子は個別の記録に記入している。職員の働きかけに対しての本人の態度や言葉等細かに書くように伝えている。見直しには介護記録を活用している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて病院受診等対応できる事は支援するようにしている。			

宮崎県都農町 グループホームたいよう(二号館)

自己	外部	項目	自己評価	二号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生の慰問やボランティアによる演奏会等を行ってきたが、地域資源を活かした活動は行えていない。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による月に一度の往診を行っている。また、家族の希望に沿い病院受診も行うようにしている。認知症の専門医への受診も状態に合わせて行っている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	発熱や食欲不振、むくみや患部の状態等変化がある時や気になる事はすぐに看護師に報告相談している。受診が必要な場合は速やかに対応するようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院側に本人の情報を提供している。面会時に状態を担当看護師から聞いたり、退院についても早期に出来るよう話し合うようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には面会に来た時等に現在の状態を詳しく伝えるようにしている。今後起こり得る状態も併せて説明している。ホームでどこまで支援が出来るのか、何が出来ないのかを説明し理解を得るようにしている。看取りは行わない方針である。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてまとめたファイルは作成している。しかし、職員の中には心肺蘇生等の訓練を行っていない者もいるので今後AEDを使つての訓練を行う予定である。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自動通報装置を使つての通報訓練や昼間を想定した避難訓練は実施した。3月に夜間想定での避難訓練を行う予定である。地元の消防団が来られ建物内部の構造等見て避難経路の確認等は行ったが合同での訓練は未実施である。			

宮崎県都農町 グループホームたいよう(二号館)

自己	外部	項目	自己評価	二号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方が職員の言葉で心を痛めないよう細心の注意を払うようにしているが、不用意な発言をしている事もある。自分に置き換えて行動を振り返り、相手の気持ちを考えて対応するように努めている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が気兼ねなく思いを表す事が出来るように日頃からコミュニケーションを大切にし、信頼関係を築ける支援をしている。思いを伝えられない方には観察や情報を集めて気持ちをくみ取るように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や余暇の過ごし方、就寝時間等入居者の方の生活リズムに合わせるように心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望があれば髪を染めたりなじみの美容室へ通う方もいる。洗面台の低い場所にも鏡を置き整髪や整容ができるようにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その時期にしか食べられない旬の野菜や果物を用意したり、四季を感じられる行事食と一緒に作ったりしている。調理の手伝いから食器洗い、おぼん拭きや台拭き等個別に担当していただいている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排泄の状態や体重の増減、血液検査の結果等を把握し、食事内容や水分量を調整するようにしている。飲み物を好まれない方には果物で水分を補給したり、調理の仕方や味付けを工夫して食が進むようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・うがいをするようにしている。自分で出来る方には声かけをして、介助が必要な方でも入れ歯を外したり磨いたり出来る事はゆっくりとしたペースで職員と一緒にを行うようにしている。			

宮崎県都農町 グループホームたいよう(二号館)

自己	外部	項目	自己評価	二号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は尿とりを使っている方でもトイレに行き排泄するように支援している。パット内での排尿、排便が少なくなる事、またトイレで気持ち良く排泄できるよう本人の排泄パターンを把握しトイレに行くようにしている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方にはホットミルクを用意したり、食事に寒天やひじき等を作り排便を促す食材の提供を努めている。毎朝のケア体操は行っているが、レク活動に運動を取り入れる事は少なく、薬を使うことが多くなっている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日あるが時間は職員の多い午後になっている。昼間に入る事に抵抗のある方もいるが説明をして入っている状態で、時間の調整ができないている。お湯の温度等は個々に合わせて入っていただいている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣に合わせて、冬場は湯たんぽや電気毛布を使用している。布団干しやシーツ洗濯も定期的に行い、清潔を保つようにしている。また、日中いつでも居家で休む事ができるようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がいつでも確認できるように処方箋のファイルを作成している。新しく処方された薬はその都度職員全員が把握するよう引き継ぎを行っている。症状に変化があれば主治医に報告し、薬の調整等を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所の仕事が好きな方には一緒に食事の準備をしていただき、おしぼりたたみやお盆拭き、カーペットのローラー掛け等、その人の力を活かせるような役割を持って携われるようにしている。買い物や外出等の支援も行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に出掛けられる方とそうでない方がいるので、家族の協力を得ながら墓参りや慣れ親しんだ場所・知人に会いに行けるよう支援をしていく必要がある。			

宮崎県都農町 グループホームたいよう(二号館)

自己	外部	項目	自己評価	二号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で財布を持ちお金を所持している方がいる。買い物に出掛けて支払をするが、お金を使った事を忘れお金がないと言われる事もある。財布の置き場所も分からなくなり探すことがあり、他の方へ影響が出ないよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと言われる方には電話をして家族の方と話ができるようにしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用リビングには時計やカレンダー、四季の花を飾り自宅と変わらないような環境作りに努めている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数人で過ごせる居間はないので広いリビングで過ごす時間が長くなる。ソファの位置を変えて気の合う人達が座れるような工夫はしているが、まだ十分ではない。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族や本人の写真を飾ったり、自宅で使っていたベッドやケース等を持ち込まれている。本人が分かり易く、使いやすいような配置にしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人で歩きたい、歩く練習をしたい方には手すりを新たに設置している。浴槽にも内部に二か所の手すりをつけて、手が届く事で安心して湯船につかれるようにした。			